

ショートコメント vol.351 (2025 年 2 月 12 日)

テーマ：東京への人口集中にみられる構造変化

～コロナ前よりも 20-24 歳への依存度が上昇、外国人の転入も増加～

●24 年の人口移動

住民基本台帳に基づく 24 年の人口移動報告によると、東京の転入超過数が 7 万 9285 人と、前年よりも 1 万人以上の増加となった（図表 1）。コロナ前（19 年）の 8 万 2982 人はまだ下回っているものの、それに肉薄する水準といえる。こうした動きをふまえ、すでに人口移動はコロナ前の構造に戻り、東京への一極集中が再開したとの評価が一般的である。

数字をみればそのとおりであるが、年齢別の動きなどをみると、少し違った印象も出てくる。

●20～24 歳への依存度が上昇

というのも、東京の転入超過は 20～24 歳への依存度が大きく高まっている（図表 2）。19 年の時点ですでに 69%と高かったが、24 年は 81%へとさらに上昇した。20～24 歳に限れば、24 年の転入超過数は 19 年よりも 1 割以上の多さとなっている。

その一方、20～24 歳以外の年齢層では、転入超過数はまだコロナ前の 6 割にとどまる。さらに、日本人と外国人に分けると、直近は外国人の増加が全体を押し上げており、日本人に限れば、転入超過数はコロナ前の 3 割にとどまる（図表 3）。

こうした状況をみると、東京をめぐる人口移動がコロナ前の構造に戻ったとは言いきれない。場合によっては別の構造に変化したとの見方も必要ではないか。

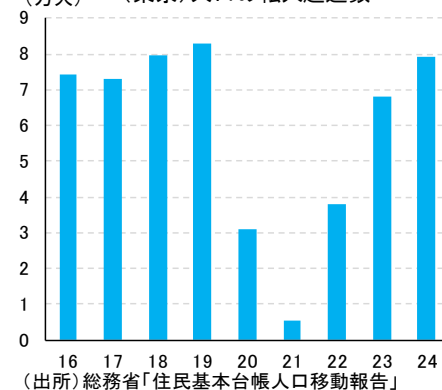
20～24 歳については、学生数の減少で新卒採用が完全に売り手市場となる中、学生の間で大企業志向が高まっていることが、東京集中の一因とみられる。であるならば、東京という土地自体が人気を呼んでいるとはいき切れない。

●20～24 歳を除く年齢層の動き

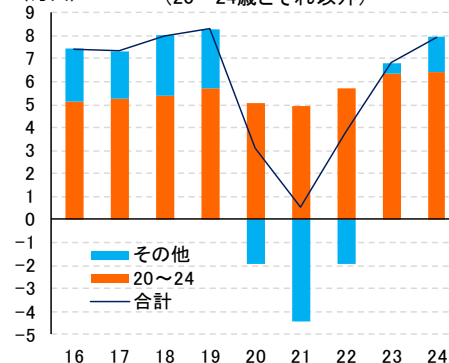
一方、肝心なのは、20～24 歳以外の年齢層がこういった動きをみせているかではないか。

20～24 歳以外の年齢層については、次ページの図表 4 のとおり、家族層（0～14 歳、30～49 歳の合計）の転出超過が続いているほか、50 代以上の転出超過の幅も拡大がみられる。こうした動きはコロナ禍によって生まれたものであり、24 年も継続している点は見逃せない。住環境の良い地域を求めて東京を出て

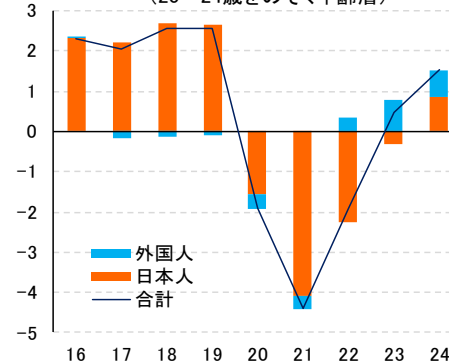
【図表 1】
(万人) (東京) 人口の転入超過数



【図表 2】
(万人) (東京) 人口の転入超過数
(20～24 歳とそれ以外)



【図表 3】
(万人) (東京) 人口の転入超過数
(20～24 歳をのぞく年齢層)



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

いく動きや、第二の人生を過ごす場所として、東京以外を選択する動きが増えているとみられる。

●外国人も転出超過から転入超過へ

東京への人口集中に対しては、地方の20～24歳が東京に流れる動きをいかに止めるに議論が集まりがちであるが、先に述べたとおり、大企業志向が背景にあるとすれば、決して簡単ではない。

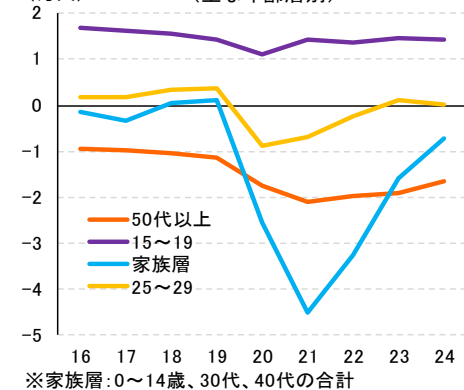
それよりも、コロナ禍以降は家族層や50代以上の動きが変わっていることに着目し、特に家族層の誘致をいかに進めるかに注目することも必要ではないか。

加えていえば、足元の東京の転入超過については、外国人の比率が高まっている点も見逃せない(図表5)。コロナ前は外国人が転出超過であったのに対し、コロナ後は1万人前後の転入超過となっている。

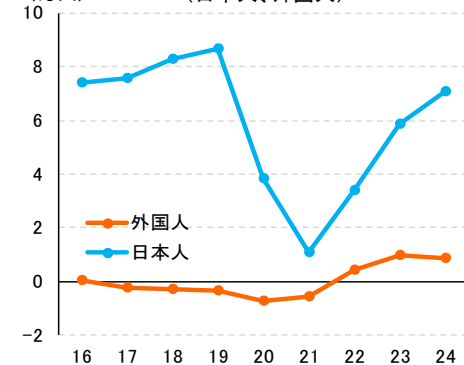
外国人については、日本人とはまた異なる要因で動く傾向がみられる。より良い待遇の仕事を探して、大都市圏に集まる傾向もあるため、外国人に関しては今後も東京への移動が続く可能性が高い。

こうした動きも十分にふまえた上で、人口の東京一極集中に対する議論が行われるべきではないか。

【図表4】 (東京)人口の転入超過数
(主な年齢層別)
(万人)



【図表5】 (東京)人口の転入超過数
(日本人、外国人)
(万人)



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。